

愛校心は自校の歴史を知ることから

日立市立坂本中学校長

毎年、9月28日は、坂本中学校の創立記念日です。以前は、創立記念日は、学校が休みになっていましたが、今は平日扱いで普段と変わらない授業日になっています。そこで本校では、毎年創立記念日を意識して、せめて1時間程度、全校集会を開くようにしています。

本校の沿革誌を調べると、昭和22年5月3日に、新憲法の発布と同時に、坂本村立坂本中学校として開校式が挙行されました。その当時は、茨城県の380校が、一斉に開校式を行い、知事訓示が読み上げられたこと。そして、その中で633制が実施され、本当に民主的で自由な正しい判断をもつて平和な国家や社会に役立つ人になり、正義と真実を愛しお互いに他人の人格を尊重し、何事にも協同を重んずる精神を、健全なる身体を持つ立派な国民を育て上げることを目的として新制度が施行されたと述べられていることを伝えました。

戦後間もない日本には、新制度施行と同時に新校舎を造る財力は無く、坂本小学校の木造2階建校舎の2階を間借りするような形で中学校が始まったこと。そして、その場所が、今の坂本小学校の場所ではなく、現大橋公民館の建物の裏側にあったことを、写真をもとに話しました。当時は、生徒数154名、4学級という小規模の学校だったことも伝えました。



初代校長の鈴木秋次郎氏が、記念誌「35年の歩み」で述べられている坂本中学校発足当時の回顧談も紹介しました。坂本村議会は、一日も早く独立校舎の建設を検討し、現在の敷地が決定したこと。山林原野だったので、村民に整地の勤労奉仕を呼びかけたところ、多くの村民から協力が得られ、整地できたこと。当時の校舎は、県南の青年学校を購入したもので、堅牢でモダンな2階建校舎だったことを伝えました。校舎の建設と時を同じくして、校章の制定も行われました。当時は、校庭の整地も村民の勤労奉仕で行われたので、校章も外部に委託するのではなく当時の若い先生方が共同で制作したこと。図案が、稲穂と花びらの組み合わせです。



稲穂には、どんな意味があるのか？

花びらは、何を願って付けられたのか？

(答え：昔から稲穂は、勤勉・勤労・健康の象徴。花びらは、未来に花咲く生徒の幸せを願っている)。

自分の学校を知ること、愛校心を育て、郷土愛を育むことに繋がります。

自分の学校が好きになることで、勉強もできるようになります。是非、坂本中学校のことを知って、好きになってください。今あるのは、過去があるからこそ。過去を知らずして、未来をすることはできません。歴史は、過去の出来事の記録ではありません。歴史は、今、作られている出来事であり、未来へと繋がる出来事であることを分かってほしいと考えてください。

令和5年1月30日